

「金融経済」と聞くと身構え、難しいものという先入観を持つ生徒がとても多い。実際に、授業前アンケートで金融や投資について聞いたところ、「自分には難しそう」や、「お金持ちが行うもの」などネガティブな回答が見受けられた。しかし、それとは逆に、「意識をしている」、「保護者が投資をしており、自分も教わっている」など、金融や経済を身近に感じ、実践している生徒もいた。

高校の家庭科で扱う金融経済教育は、身近な日々の消費から始まると考えている。なぜなら、毎日のようにジュースやお菓子などを購入する行動から、消費者として経済に関わっているからである。

今回の授業で使用した全国銀行協会の「はじめてのサステナブルファイナンス」は、導入にちょうど良く、社会的課題と金融のつながりを理解し、自分の消費行動の振り返りを行ってから授業に入ることができた。普段の買い物から社会全体を見渡し、正しい知識に基づいた選択や行動とは何かを、最初に考えることができた。

また、資産形成については私自身何から始めればよいのかとても悩む分野であった。その中で、「シリーズ教材お金のキホン アクティブラーニング型授業プログラムガイド 資産形成編」を活用した。資産とは何か、お金の運用方法にはどのようなものがあるかの確認とともに、投資の疑似体験から周囲と情報を共有する場は、生徒にとってとても有意義な時間となった。これらの活動と併せて、ライフイベントでかかるお金についても考えることができた。限られた授業時間の中で、どのようなお金が投資に適しているか、お金にも働いてもらうことで、持続可能な社会の実現に貢献できる場合もあるということを感じることができた。

家庭科における金融経済教育の扱いが注目される中、このような機会をいただき私自身も学び、深く考える時間となった。これからも、生徒の金融経済教育がよりよいものになるようサポートしたいと考えている。

【生徒の感想（抜粋）】

- ① 普段何気なくしている買い物にも契約が生じていて、私たち消費者にはたくさんの権利と責任があることを知った。お金を稼ぐことはとても大変なので大事に扱いたい。金融経済について詳しく知ることができる良い授業だった。
- ② 消費者教育を通して経済に対する責任感が芽生えた。将来必要となる契約やローン、クレジットカードの使い方を今のうちから知識として身につけ、将来に生かしたいと思った。
- ③ クーリング・オフ制度について、名前は聞いたことがあったが具体的には知らなかったので、授業を通してどのような制度なのか、どのように活用すればよいか分かった。
- ④ 大人になるにあたり、様々なところでお金に関わることになる。契約や権利、責任をしっかりと頭に入れておきたいという意識を持つことができた。
- ⑤ 18 歳になったらできることも増えるが、その分自分で気をつけなければいけないことも増えるので、授業で学んだ大切なことを覚えておきたいと思った。お金に困っている時ほど、詐欺などの被害に遭いやすくなるのではないかと感じた。